

平成 28 年度舞鶴工業高等専門学校外部評価委員会 議事要旨

1. 日 時 : 平成 28 年 11 月 17 日 (木) 13:00 ~ 15:18

2. 場 所 : 舞鶴工業高等専門学校 大会議室

3. 出席者 : 外部評価委員会委員

東 信 彦 委 員 (長岡技術科学大学 学長)

後 藤 景 子 委 員 (奈良工業高等専門学校 校長)

田 中 孝 幸 委 員 (日進製作所 (株) 総務部長)

龜 井 雅 之 委 員 (舞鶴市中学校長会 会長 (若浦中学校 校長))

学内出席者

齋藤校長 (評価委員会委員長)、平地副校長、金森教務主事、谷川学生主事、仲川寮務主事、三輪専攻科長、金山評価委員会副委員長、奥村企画室長、高谷 JABEE プログラム責任者、篠原進路指導委員会委員長、桑原事務部長、藤元総務課長、松梨学生課長 (他 陪席者あり)

4. 校長挨拶

議事に先立ち齋藤校長の挨拶が行われた。

5. 委員の紹介

金山評価委員会副委員長より委員の紹介が行われた。

6. 委員長選出

本校外部評価委員会規程第 5 条に基づき、委員の互選により東委員が委員長に選出された。

7. 状況説明・質疑応答

(1) 平成 27 年度の年度計画・実績と平成 28 年度計画・進捗状況について

奥村企画室長より配付資料に基づき説明が行われた。

金山副委員長より、女性教員の増員、女子学生の修学環境といった課題について、後藤委員に意見を求めた。

後藤委員より、奈良高専でも女性教員は少ない状況であるが (特に専門学科)、高専に興味のある女性 (大学院生やオーバードクター) を対象としたインターンシップを実施しているとの説明があった。高専出身者で教員志望の大学院生を調査してコンタクトを取る、在学中の女子学生を自前で育てる、などといった草の根的活動も必要である、また女子学生の修学環境については環境整備だけでなく、「女性の生き方」などを語る場所を提供する事も大切である、との意見があった。

奥村企画室長より、女性が拘る設備を具体的に教えて欲しいとの質問があり、後藤委員より、何よりもまず「トイレ整備」であり、他は外灯整備等、キャンパス内の安全確保などが挙げられるとの回答があった。

東委員長より、女子学生あるいは女性教員の増員について具体的な目標値を設定しているかとの質問があった。奥村企画室長及び齋藤校長より、現在1学科あたりの女子学生数の平均は16名程度、近畿地区国立高専内で最低の水準であり、入学者に占める女子学生の割合の目標値は機構全体として3割であるが、現在の高専全体の女子学生比率は2割程度であるとの回答があった。

東委員長より、本校の年度計画全般について、具体的な数値目標があまり明記されていないが、目標設定水準の妥当性も問われると思われるので、今後は具体的な数値を記載した方が良いのではないかとの意見があった。これについて田中委員より、全ての項目に数値目標を立てるのは大変なので、ある程度項目を絞った方が良いのではないかとの意見があった。

(2) 平成27年度 JABEE 継続審査結果と今後の対応について

高谷プログラム責任者より配付資料に基づき説明が行われた。

東委員長より、JABEE 受審にあたっての特記事項（苦労した事など）について質問があり、高谷プログラム責任者よりエビデンスとなる資料の保管、自己点検書の作成の工夫などについて説明があった。

後藤委員より、奈良高専が本年受審した際の状況について説明があった。今後、JABEE 受審については高専間の様々な情報交換が必要なのではないかとの意見があった。

(3) 進路指導とキャリア支援活動について

篠原進路指導委員会委員長より配付資料に基づき説明が行われた。

金山副委員長より、低学年生（1年・2年）に対するキャリア教育が足りない事について、各委員にアドバイスを求めた。

龜井委員より、高専教員が中学を訪問して出前授業などの場で色々話すことがキャリア教育となっており、高専入学後も意識が継続されるとの意見があった。

田中委員より、出来る限り早い段階で自分の将来を学生自らが考える機会を設けること、リーダーシップを身につけることの必要性、グローバル（異文化交流）を身につけることの必要性について意見があった。また、合同企業説明会は高専側の事務負担軽減の観点から、もう少し企業側に任せても良いのではないかとの意見があった。

東委員長より、高専は一番キャリア教育が上手く行っている教育機関だと思っているが、舞鶴高専も是非1年生を対象とした技術者の役割を気付かせるような研修（インターンシップなど）を行うなど、早い段階から将来について考える機会を提供してほしいとの意見があった。

後藤委員より、地元の就職率を上げるための具体的な施策はないかとの質問があり、篠原委員長より、就職は本人の意向を優先する事もあり、なかなか難しい状況であるとの回答があった。

(4) 学生寮、その他全体的なことについて

東委員長より、高専の寮生活で先輩が後輩を指導するような機会があれば、具体的に教えて頂きたいとの質問があり、仲川寮務主事より、各フロアに1～3人の指導寮生を配置し、上級生が下級生を指導する体制を取っているとの回答があった。

齋藤校長より、学生寮の1室あたりの配置人数は何人くらいが適正なのか悩むところであり、是非アドバイスを頂きたいとの意見があり、東委員長より共同生活が出来るようなスペースは必要であるが、個室が基本ではないかとの回答があった。また後藤委員より、教育寮としての機能と個人生活の両立が重要であるとの意見があった。

(5) 総括

東委員長より、年度計画は重点項目に絞った形で構わないので、評価の基準について KPI (Key Performance Indicator : 重要業績評価指標) を示すなど、もう少し具体的かつ分かりやすい基準を設定して達成度を自己評価したらどうかとの意見があった。JABEE 継続審査については幾つかの指摘事項はあったが、その後の対応については上手く考えられているとの意見があった。進路指導、キャリア教育については、低学年から将来について考える機会を与える方が良く、1年生位から地元の企業等でインターンシップを行ってはどうかとの意見があった。また、高専の寮生活はリーダーシップ形成に非常に役に立つため、教育の場として活用して頂きたいとの意見があった。企業においても避けて通れないグローバル人材の育成についても、是非進めて頂きたいとの意見があった。

8. 校長挨拶

閉会にあたり齋藤校長の挨拶が行われた。